

## 『苦しみで知る幸い』（詩篇 119 篇 65-72 節）2021.1.3.

<はじめに> 新しい年を迎えましたが、私たちは昨年来、苦境の中を通過しており、出口は未だ見えてはいません。その中であって、私たちはどのように歩もうとしているでしょうか。

### I 苦しみの中で気付く

#### ① 歓迎できない苦しみ

私たちは苦難は直感的に嫌悪します。しかし現実には様々な苦しみに会います。苦しみが無ければどれほど良いかと思うことはしばしばですが、苦しみに会うことで得られるものがあることも経験しています。この作者も 71 節でそのことを告白しています。

#### ② 苦しみが示すもの

痛みは辛いことですが、私たちに異常・異変を教えるアラームです。もし無ければ気付くことがより困難です。作者は苦しみに会う前の自分を「迷い出ている」(67)と言います。神のみことばは私たちに幸いを示します。そこからはみ出て危険へと向かっていたのです。

#### ③ 苦しみを通して

苦しみに会うと私たちはより注意を払い、今まで軽視・無視していたことにも目を向けます。自己過信していた者も謙虚になります。高ぶる者(69)、鈍感(70)は苦しみに会う前の姿です。しかし今は、神のみことば、みおしえに従順に耳を傾けるようになりました(67,70)。

### II 苦しみから受ける幸い

#### ① 良くしてくださる神

良くしてくださる神(65,68)を、人は自分本位に都合良いことをしてくださると考えがちですが、神はそれ以上の御方です。人のために「善にして善を行う」(68 文語訳)方です。知恵と恵みに満ちた方が、有限な存在である私たちに語り掛け、教えようとされています。

#### ② 教えてください

謙虚さは教えられやすさに現れます。「教えてください」(66,68)と首を垂れ、そのことばに耳を傾けようとします。すぐに理解できなくても、信じ(66)期待し、その真理を学ぼう(71)と深く思い巡らします。また語られたことを守り行います(67,69)。

#### ③ みことばを喜ぶ

このような神との交わりを持つから、「苦しみにあったことは、私にとって幸せでした」(71)と告白できるのです。その人にとって神のことばは喜びであり(70)、金銀にもまさります(72)。現実に起こり来る様々な問題課題の中にも、神を見て、神に聞き、支えられる幸いです。

<おわりに> 苦しみがなくなることも幸いです。しかし、苦しみさえも良きことに変えて、私たちに益とてくださる神に信頼し、その御方のことばを聞き、共に歩む者の幸いは、さらにまさるものです。(H.M.)